

2018 年度(平成30年度)学校評価自己評価表

向丘中学校区	校番22	福山市立高島小学校
最終更新日	2018年(平成30年)4月2日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 21世紀型「スキル&倫理観」 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	表現力, 課題発見・解決力, 情報活用能力, 主体性, 協調性・柔軟性, 自己理解, 郷土愛
<ul style="list-style-type: none"> <li>校区共通の指標を設定し、実態や成果課題を整理しており、校区の取組がよくわかった。</li> <li>小集団学習等により、自分の考えを深めたり広げたりできている。</li> <li>教職員研修や地域とのかかわりは概ね良好である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科における表現力が十分にみについていない。</li> <li>自ら行動しようとすることや粘り強く取り組むことが苦手な児童生徒がいる。</li> <li>自己肯定感や自己有用感が低い児童生徒がいる。</li> </ul>	中学校区として統一した取組等	人とのかかわり合いを大切にし、学ぶ意欲を持ち、自分の生き方を主体的に考える子ども ○校区の学力課題を分析し、自ら考え学ぶ授業づくりを推進する。 ○生活態度、規範意識について共通的・系統的な取組を推進する。 ○特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりを推進する。

III 自校

ミッション 地域に誇りを持ち、確かな学力を基盤に意欲と目標をもって自己実現できる児童の育成	育成する力 21世紀型「スキル&倫理観」	「課題発見・解決力」	「主体性」	「自己理解」
学校教育目標 豊かな心とたくましい実践力を育てる	めざす子ども像	1年 2年 課題を理解し、自分の考えを持つことができる。	課題について自分から考えようとする。	自分の出来たことやがんばったことがわかる。
		3年 4年 課題を見つけ、比較したり関係づけたりしながら自分の考えをまとめることができる。	課題について自分の力で考えながらやり遂げようとする。	自分の学びのよい所や課題について振り返ることができる。
		5年 6年 課題を見つけ、多角的・多面的に見たり考えたりしながら課題を解決できる。	見つけた課題についてよりよい考えを追求しようとする。	自分の学びの成果と課題を振り返り、自己の成長に活かすことができる。
現状 <児童生徒> 組織的な教職員の取組により、児童が落ち着いて学校生活を送ることができるようになった。素直な気持ちを持ち、指示されたことをきちんとやり遂げようとする児童が多い。また、教師の働きかけにより、自主的・自発的に創意工夫して行動できる児童もいるが、今後、自分から主体をもって行動できる児童を今以上に育てていかなければならない。 <授業> 理科、図画工作科を中心に、校内研修等で意欲の向上、思考力、判断力の育成、協働の学び合いを意識した授業づくりを進めてきた。「子ども主体の学び」を実現すべく、課題発見・解決学習の在り方を研究しながら取組を継続している。今年度、「子ども主体の学び」について目指す子どもの姿を明らかにするとともに、どのような授業づくりを進めるか、共通理解を図り取り組む必要がある。	教科等 理科, 図画工作科	子ども主体の学びと思考力、表現力の育成 —課題発見・解決力の育成を通して— ・児童に意欲と課題意識を持たせる教師の働きかけ ・課題発見・解決力を育てる思考の「すべ」の活用 ・課題解決に向けた子ども主体の学び合い ・自己の学びと振り返り		
	めざす授業の姿	・単元構成や導入を意識し、意欲の高まりと明確な課題意識により、主体的な学びを喚起・継続する授業 ・思考の「すべ」を活用し、児童が課題発見・解決する授業 ・子ども主体、協働的な学び合いがある授業 ・自己の成長や課題を自覚し、児童が次の学習に活かす振り返りのある授業		

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価 (10月1日)			最終評価 (2月末)				
							□指標にかかる 取組状況	加 え た 評 価	達 成 評 価	改 善 方 策	□指標にかかる 取組状況 ○短期(中期)経 営目標の達成 状況	加 え た 評 価	達 成 評 価	総 合 評 価
3	基礎学力の定着 と探求する楽し さ, わかる喜び を知る授業づく りを推進 【課題発見・解 決力, 主体性, 自己理解の育 成】	★	継 続	①児童に基礎的・基本 的な知識技能を習得 させる。 (標準学力テストによ り評価) *全項目全国平均以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリルタイムで算数 の思考力・表現力を 高める問題に取り組 む。</li> <li>個別の指導の充実を 図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な知識・技能 を定着させる問題を 行い, 算数学期末ま とめテストで 85%以 上の定着を図る。</li> <li>単元テスト(国算理) で 60%以下の児童 を0人にする。</li> </ul>								
			★	見 直 し	②カリキュラム・マッ プの活用と子ども主 体の学びの実現によ り, 思考力・表現力 の育成を図る。 (標準学力テストによ り評価) *全項目全国平均以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元・単位時間の導 入や課題の自覚を促 す工夫, 思考のすべ の活用を意識した授 業づくりを進める。</li> <li>1日1回はペア学 習・グループ学習を 取り入れた授業を行 い, 順序や理由, 定 義等を意識した説明 を意図的に仕組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入の工夫や思考の すべの活用について 月1回進捗状況を交 流する。</li> <li>授業において, 自分 の考えをまとめるこ とのできる児童 80%以上, ペア学 習・グループ学習で 自分の考えを説明で きる児童75%以上 にする。</li> </ul>							
3	自分のよさを自 覚し地域に愛着 を持つ児童を育 成する。 【地域に対する 誇り, 自己肯定 感と自己有用感 の育成】	★	見 直 し	③地域に愛着を持つ児 童を育成する。 (児童アンケートによ り評価) *地域に愛着を持つ児 童 95%	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲストティチャー(地 域の方)を招いた学習 を各学年2回以上実 施する。</li> <li>地域の方へのお礼の手 紙を, 全児童に3通以 上書かせる。</li> <li>地域体験学習を年2回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月, 9月, 1月実 施の児童アンケート 「自分が住んでいる 地域が好き」におい て, 地域に愛着をも つ児童を 95%以上 にする。</li> </ul>								

				以上実施する。										
			④自己肯定感と自己有用感を持つ児童を育成する。 (児童アンケートにより評価) *自己肯定感・自己有用感のある児童 <u>90%以上</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域清掃活動を年5回全学年が取り組み、自己有用感を高める。</li> <li>生活の5つの目標を全校で取り組み、指導と肯定的評価を行う。</li> <li>縦割り班掃除を年間を通して実施する。</li> <li>幼小連携や低・中・高学年間交流を年1回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月、9月、1月実施の児童アンケートにより、自己肯定感・自己有用感のある児童を各90%以上にする。</li> <li>「人が困っているときは進んで助ける」児童を90%以上にする。</li> </ul>									
3	体力の向上と生活リズムの定着【自ら体力づくりを行い健康に留意する児童】	見直し	<p>⑤児童に自己の体力への関心を高め、体力を向上させる。 (5月・10月新体力テストにより評価) *県平均以上の項目75%以上(シャトルラン、上体起こし、長座体前屈)</p> <p>⑥児童に望ましい生活習慣を身に付けさせる。 *生活頑張りカード90% *う歯治療率100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>走の運動を取り入れた高島っ子タイムを実施する。</li> <li>体力づくりの運動を家庭学習で取り組み、課題のある運動を継続して取り組む。</li> <li>月に1度のNoメディアデーを年5回、生活がんばり週間を実施する。</li> <li>う歯の受診勧奨を長期休暇前に行う。</li> <li>歯磨きタイムを全校一斉に実施し、虫歯の予防に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の運動(シャトルラン、上体起こし、長座体前屈)それぞれが、36項目(6学年男女)のうち27項目以上県平均以上にする。</li> <li>平均達成率:Noメディア・早寝・早起き・朝ご飯共に90%以上にする。</li> <li>う歯保有率を20%、う歯治療率を100%にする。</li> </ul>									
3	教職員の姿と積極的な情報発信により、地域・	継続	⑦学校・教職員の取組や情報発信により、保護者地域が学校・	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上の取組の徹底、児童の活動への丁寧な評価、保護者との</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月、9月、1月実施の保護者アンケートにより、学校・教</li> </ul>									

<p>家庭に信頼される学校</p>		<p>教職員の取組を肯定的にとらえている。 (アンケートにより評価) *肯定的評価 90%</p>	<p>積極的な連携など、教職員の意欲的な取組を全校で行う。  ・中学校区・学校の取組を積極的に情報発信する。</p>	<p>職員の取組に対する肯定的評価を 90%以上にする。  ・通信等を活用し、小中一貫教育の取組を年5回以上保護者、地域に発信する。 ・月1回以上、通信等(学校、学年、保健)を発行する。</p>									
-------------------	--	-----------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。